

生誕一二〇年

牡丹(部分)／一九六七年／紙本墨画彩色(二曲一隻)丸木ひさ子氏蔵

原爆の図丸木美術館 二〇二二年一月三〇日[土]～二〇二二年一月三〇日[日]

休館日：月曜日(月曜祝日の場合は翌平日)、二〇二二年二月二九日[水]～二〇二二年一月三日[月] 開館時間：九時～一七時(二〇二二年二月一日[水]～二〇二二年二月二七日[日]は九時三〇分～一六時三〇分)

観覧料：一般 九〇〇円 中高生または一八歳未満 六〇〇円 小学生 四〇〇円(比企・東松山在住者・チラシ持参は各通常料一〇〇円割引、障がい者は半額) 六〇歳以上 八〇〇円 主催：原爆の図丸木美術館 助成：公益財団法人ポーラ

美術振興財団、公益財団法人三菱UFJ信託地域文化財団 問い合わせ：原爆の図丸木美術館 二三五五―〇〇七六 埼玉県東松山市下唐子二四〇一 T 〇四九三―二三三六六 F 〇四九三―二四一八三七 | <https://marukigallery.jp> info@marukigallery.jp

丸木位里展

実験の
軌跡を
たどる



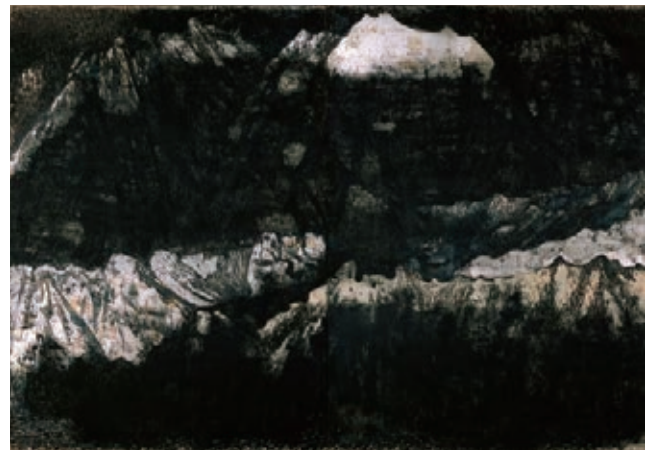
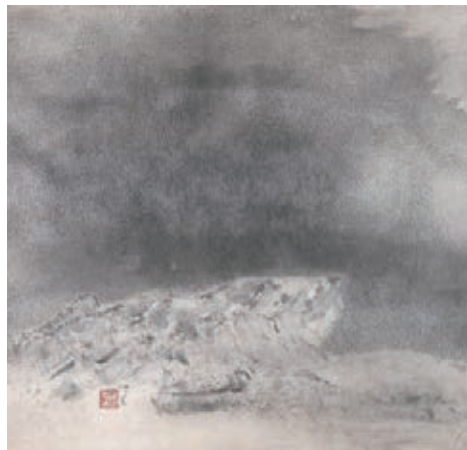
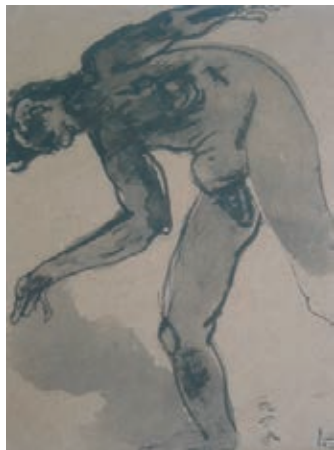
二〇一一年 丸木位里展

誕生 実験の軌跡をたどる

豪放にして繊細な水墨表現を通して、スケール感のある壮大な風景を中心に描き続けた画家・丸木位里（一九〇一〜一九九五）。位里の生誕一二〇年にあたる二〇二一年、原爆の図丸木美術館では、初期作品から晩年までを約三〇〇点によって紹介します。広島の上流の農家に生まれた位里は、上京して伝統的な日本画を学んだものの、それに飽きたらず、一九三八年には前衛的な日本画団体である歷程美術協会に参加。一九四〇年にはシュルレアリスムを標榜する美術文化協会に加わり、水墨画の多彩な技法を駆使して、抽象的で生動感に溢れる実験的な作品を制作しています。一九五〇年には、妻の丸木俊との共同制作「原爆の図」第一部《幽霊》を発表し、それ以降、「原爆の図」は連作として一五部まで描き続けられました。一方で一九六〇年以降は、日本国際美術展、サンパウロ・ビエンナーレなど国内外の展覧会で作品を次々と発表し、高い評価を得ました。本展では、屏風作品のほか、戦前・戦後の実験的な精神に満ちた水墨画、「原爆の図」を創作する核となった人体デッサン、近年の調査研究で明らかとなった未公開作品などに、俊との共同制作を加えて、丸木位里の画業を展覧します。本展の会期中には、修復作業を終えた共同制作《南京大虐殺の図》（一九七五年）、《アウシュビッツの図》（一九七七年）、《水俣の図》（一九八〇年）など壁画作品の常設展示を再開（二〇二一年一月中旬以降を予定）します。

ご案内：日本画制作の現場 V ―丸木位里・丸木俊展―

本展の会期中、広島市立大学芸術資料館では「日本画制作の現場 V ―丸木位里・丸木俊展―」（二〇二一年一〇月二六日「火」〜二〇二一年一二月一〇日「水」）開館時間：二〇時〜一七時、入館無料）を開催しています。現代日本画家を取り上げる第V期の企画展として、丸木位里と丸木俊の実験的な水墨表現や油絵、人体デッサンや水彩スケッチ全三一点、二人の共同制作「原爆の図」第二部《火》（一九五〇年）が展示されます。問い合わせ（電話）：〇二八八三〇一一八二二



五

四

三



- 交通：東武東上線森林公園駅南口よりタクシー一〇分、徒歩五〇分。東武東上線東松山駅より市内循環バス唐子コース（日祝運休）約一五分「丸木美術館東」下車徒歩一五分。関越自動車道東松山インターより小川方面二〇分。東武東上線東つぎのわ駅南口より徒歩二七分。詳細は丸木美術館にお問い合わせ下さい。
- 一、グランドキャニオン（部分）／一九八九年 紙本彩色・屏風（四曲一隻）／丸木ひさ子氏蔵
 - 二、不知火海／一九八〇年／紙本墨画淡彩 原爆の図丸木美術館蔵
 - 三、伯耆大山／一九六六年／紙本墨画淡彩、銀箔・屏風（二曲一隻）／原爆の図丸木美術館蔵
 - 四、高原／一九四六年／紙本墨画／丸木ひさ子氏蔵
 - 五、原爆の図デッサン／一九四九年／墨、紙 原爆の図丸木美術館蔵